

トピックス

地方創生拠点整備事業による新規整備施設の紹介

農業技術センターでは、国庫事業を活用し、①施設の複合環境制御による園芸品目の生産性・品質向上を目指した研究及び普及の促進②病害虫診断の高度化と防除の研究拠点化③酒米に関する研究促進と広報の拠点化を目的として2018年度に新施設を整備した。ここでは、各施設の概要について紹介する。

内 容

1 複合環境制御温室（写真1）

収量・品質向上につながる最適な栽培環境を実現するため、トマト、イチゴ、葉物野菜、鉢物・花壇苗用花き、果樹の研究用温室（各3棟）と、研究成果の展示・研修用温室（1棟）を整備した。温室の制御はすべてUECS*で行い、側・天窓及び内張カーテンの開閉、冷暖房を複合制御できる。また、トマト用温室は長期多段収穫に対応するため、3.8mの高軒高としている。花き用温室では、鉢物の根域温度が制御できる仕様としている。

2 病害虫高度診断・防除研究拠点（写真2）

農作物の栽培過程において発生する病害虫を中心とした障害について、レーザー顕微鏡や高解像度実体顕微鏡、リアルタイムPCR装置等の高度な設備を用いて診断と防除の研究を行う施設として整備した。鉄骨平屋建ての研究棟（情報処理室、微生物培養・画像解析室、遺伝子解析室、虫害解析診断室、予備診断室）とまん延性の高い病気・害虫の飼育・保管等による実験を行う隔離温室がある。



写真1 複合環境制御温室

3 酒米研究交流館（写真3）

①酒米の醸造適性に関する酒造メーカーとの共同研究拠点、②酒米の生産性や品質の向上のための研修拠点、③兵庫県産酒米の需要拡大のための広報拠点を目的に、酒米試験地内に整備した。施設は木造2階建てで県産材を100%使用し、酒蔵風の白壁建築である。1階は、多目的室、作業室、展示コーナー、2階には、相談室、資料室、研究室などがある。

※ UECS：ユビキタス環境制御システムの略で、施設内の環境を複合的に制御するシステム。インターネットの通信規格に準じ、拡張性・汎用性が高い

松浦 克彦（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2411）



写真2 病害虫高度診断・防除研究拠点



写真3 酒米研究交流館